

# 搬送症例の情報共有

救急隊員 医師らと意見交換

室蘭で検討会

製鉄記念室蘭病院（松木高雪院長）の救急症例検討会が、室蘭市知利別町の同病院で

開かれ、西胆振の救急隊員らが救急医療の現場で起きた症例や搬送後の対応・処置の在り方などを発表し、医師

らとも意見交換。一刻を争う事態での対応や連携などについて再確認していた。

実際の救急搬送の現場で起きた症例や、搬送後の対応・処置などを踏まえ、情報共有を図る勉強会。室蘭と伊

達、登別、白老各市町の消防隊員と、同病院の医師や看護師ら計90人が参加した。

同検討会では胸部の不快感と吐血、急性心筋梗塞など心臓疾患を中心に4例が報告された。室蘭市消防署は、消防車の救急活動支援（PA連携）による「搬送中の自己心拍再開症例」を紹介した。

この例では、「先着した消防隊との連携で、早期に有効な一次救命措置を行うことができた例」と説明。岩城淳救急救命士は「これからも活動隊へのフールドバック、研修、訓練などで連携強化に取り組んでいきたい」などと話した。

また、同病院小児科の斉藤淳人医師は「小児トリアージと初療のポイント」について解

説。小児救急搬送症例の約70%がけいれんといったデータを示した上で、「大きな発作が治まっても、けいれんは続いていることがある。呼吸停止には注意を」などと述べた。

また、「顔と腕一本トリアージ」として、意識や呼吸状態、皮膚の色、呼吸音、動脈血酸素飽和度(SpO<sub>2</sub>)など、小児トリアージで確認すべき10点のポイントを解説。参加した救急隊員らも緊急性を要する小児搬送の知識を深め合った。

（松岡秀宜）



心臓疾患の搬送症例などについて意見交換した救急症例検討会